



Imoto Lines

井本商運株式会社

2018年8月1日

畑本郁彦氏、谷川夏樹氏が「2018年山縣勝見賞」受賞

一般財団法人山縣記念財団では、海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰するために、「山縣勝見賞」を設けていますが、第11回目に当たる「2018年山縣勝見賞」に当社社船「ながら」の機関長である畑本郁彦氏が「論文賞」を、当社オリジナルカレンダーの絵画を描いている画家の谷川夏樹氏が「特別賞」を受賞しました。

受賞式は7月20日、東京平河町の海運ビル（海運クラブ）にて行われました。



贈呈式の様子 谷川夏樹氏（左端）、畑本郁彦氏（右から2番目）

両氏の紹介と受賞背景は次の通りです。

【論文賞】 畑本郁彦氏

受賞論文 「内航船の安全管理体制構築に関する研究」

(神戸大学大学院海事科学研究科／海事科学専攻 博士学位論文 2017年9月)

畑本氏は、当社初の670TEU型内航コンテナ「なとり」の機関長を務めた後、同型船「ながら」の艀装監督を経て、現在は同船の機関長を務めています。

同氏の論文は、内航船の安全管理体制に必要な施策を具体的且つ分かりやすく明らかにし



ている点が大きく評価されました。また、実務上の問題に日々向き合い、学界・業界の最先端の知見を得ながら問題解決に尽力している点で、学術的にも実務的にも非常に価値の高い論文と云われています。

【特別賞】 谷川夏樹氏

谷川夏樹画伯は、世界を旅する独自のキャラクター「コンテナくん」をテーマに作家活動を行っています。同氏はTwitterで『7月15日を内航船の日と呼ぼう』と発信し、2015年に日本記念日協会から認定されました。著書に『コンテナくん』、『かもつせんのいちにち』などがあります。また、2017年以降の当社オリジナルカレンダーの作者を務めています。



同氏は、絵本のモチーフとして船を取り上げ、とりわけ内航船の役割や深刻な船員不足を知り、内航海運の存在を広めようという意識で小学生や未就学児童に船や海運に親しんでもらうための絵本を上梓している点が評価され、受賞につながりました。